平成２８年度岡崎市観光基本計画推進委員会　第４回議事録

日時：　平成 28 年 10 月 26 日（水）　15 時 00 分～17 時 00 分
場所：　岡崎市役所東庁舎 2 階　大会議室
出席委員：　10 名
高橋一夫（委員長）、A 齋藤眞澄、B 河原一夫、C 竹内博剛、D 嶋村光世、
E 神谷知秀、F 堀田大祐、H 天野裕、I 五反田智美、J 長尾晴香
欠席委員：佐野委員、西尾委員、野村委員
オブザーバー：愛知県観光協会専務理事代理、志賀爲宏（岡崎市観光協会会長）
石原嘉明（岡崎活性化本部観光推進プロデューサー）
山中賢一（岡崎市商工会議所理事）
事務局：8 名（神尾経済振興部長、観光課職員 4 名、(株)JTB 総合研究所 3 名）
傍聴者：0 名

１　開会

２　委員挨拶、資料確認

３　議題

（１）岡崎市観光基本計画アクションプラン（案）について
（２）前アクションプランの評価について
（３）目標指標について

（事務局）
【資料 1・2・3 概要説明】

（１）岡崎市観光基本計画アクションプラン（案）について

（委員長）
- 皆様からご意見を頂戴したい。大きな変更はなく、庁内の指摘に合わせて若干修正があった。

（E 委員）
- 食の関連での活動について報告させていただく。それに対するご意見をいただきたい。岡崎には活動団体がいくつかあり、それぞれが様々な活動をしている。それらの団体を取りまとめて一つの大きな組織を作ることを考えている。そうすることで力が集合し今よりもさらに大きな PR 活動や活性化につながる。6 つの団体、八丁味噌協同組合、岡崎まぜ麺会、岡崎家康プロジェクト、岡崎食べりん倶楽部、岡崎おもてなしキャラバン隊、16 日に発足する岡崎おうはんを普及する会を一つにまとめてネットワ

ークを持つこととしている。

- 岡崎の新しい名物料理を開発し発信する目的で動いていきたい。まず新名物の開発チームとグルメイベントへの出場チームを作っていく。団体のメンバーを呼び集めてチームを作りそれぞれ名物を開発してもらう。最終的には披露する場を設けて公募した審査員やモニターが審査、評価し認定していただく。それを外へ販売できるように開発し直し、グランプリを目指し全員で一丸となり岡崎というものを大きく PR できるのではないか。その際に会議の開催、試作、会場等の費用の面で、相談できる窓口があり民間の飲食店への助成制度があれば有り難い。可能であれば力をお借りしたい。

（委員長）

- 民間の話し合いの場ができることは非常に良い。

（B 委員）

- 形式はできてきているが、具体的なアクションプランに数値的な実現性を持ってどう落としていくかが重要だ。私も様々な組織がばらばらに動いていると感じている。DMO 等で全体をまとめないとどうしても無駄が生まれてしまう。前回に比べてプラン自体はきれいにまとまっている。

（A 委員）

- 1 ページ目の改定の目的の中で、関連する方々の経済波及効果、雇用効果を入れていただいたことは非常に良い。やりたい方々を支援していくべきだ。関連する方が共感を持てるものになると良い。
- 33 ページで岡崎東部エリアの観光地化の推進とあるが、藤川宿などの歴史的遺産となじまないような気がする。プロジェクト名と内容に違和感を持った。

（委員長）

- 最近は観光の意味が拡大している。先日東大阪市で DMO の立ち上げのお披露目会があった。東大阪市長が、自分たちが目指す観光が、広辞苑で表記されている観光とは違うということが議論の中でわかってきたと言っていた。東大阪のものづくりやスポーツツーリズムは広辞苑の定義とは合わず、新たな観光の定義を自分たちで作っていくと言っていた。そうした意味を拡大していくことは悪くはない。世界観光機関（UNWTO）という国連の組織では、観光とは日常の生活圏から 24 時間離れることだと定義している。そう考えると出張でも観光となる。観光を幅広くとらえた方が岡崎市としてもわかりやすいのではないか。岡崎市の観光を定義づけして発信するべきではないかと思う。

（F 委員）

- 総合的な計画のため広い視点は入ってくるが、ロードマップでは優先的にやりたいことも出てくることとなるので、いつまでに実施するのかが分かると良い。果たして 4 年でどこまで実現できるのか。

（委員長）

- おっしゃる通りで、（こうした計画類は）市民に向け総花的になりがちだが、具体的なスケジュールを盛り込める可能性はあるのか。それとも今後の議論となるのか。

（事務局）

・ もちろん重点プロジェクトを優先していく。年度ごとの計画を策定し、観光白書を公表しながら年度ごとのプロジェクトを変更していくこととなる。予算付けができた事業の中でロードマップを示せる事業もあり、予算化ができない事業の場合はどれを優先するかを議論して、今後検討していきたい。

（委員長）

・ 他地域で行政評価をした時に感じたが、観光事業は他の施策と同列に扱うことが困難になってきた。実施したかどうかではなく、いつまでに実施するかということを民間事業者にお示しすれば、民間の活力を吸い上げることができる。一度に変えていくことは難しいが、今後はそうすべきではないか。

（事務局）

・ 過去のアクションプランで実現できなかったことや成果を踏まえた上で、今回のアクションプランを策定している。ご指摘の通りだが、稼ぐ力を育てる観光産業都市を目指しているため、財政的な裏付けに縛られない、民間の活力を生かしたアクションプランとしたいと考えている。具体的な裏付けを入れると逆にできない部分も出てきてしまう。柔軟な考えの中で捉えていただきたい。

（委員長）

・ 岡崎市からすると、このプランを見て民間の事業者からやりたいことが出てくるということであれば、E 委員が言ったような事業では民間側が半分用意するというルールを示した方が民間の話はまとまりやすいのではないか。本来は受益者負担で考えるべきだと考えている。行政からは事業への乗りやすさを提示してはどうか。

（事務局）

・ それに関係して、観光協会の法人化を検討している。当然法人化すれば、より柔軟でスピーディな取組が可能となる。

（H 委員）

・ ロードマップがあることには同感だが、観光産業都市を目指すにあたって 4 カ年の指標も出ているが、何をもって観光産業都市になったかということが市民に共有できていない。4 年後の指標が達成されたときに観光産業都市となったと言えるのか。事業者も市民も観光に対して理解しておらず、その機運も高めていくことが大事だ。

・ 白書が出されても KPI が 4 年後のもので比較できないため、年度ごとのロードマップがあれば良い。事業者や市民が観光産業都市に近づいているかどうかがわかる KPI があっても良いのではないか。

・ 指標に関係することだが、回遊率が目標指標 4 で 2.2 から 3.0 となっており、103 ページの表 15 では観光地点訪問箇所数が挙げられているが、行政が仕掛ける大きな観光と事業者が仕掛ける小さな観光があると思っている。リバフロで KURUWA という回遊動線を設定し、300 メートルごとに目的地となる集客ポイントを作ろうという話を進めており、実際に籠田公園や連尺通りの中にも店ができているが、それらを回ったことも回遊とカウントしたい。リバフロ地区限定でも回遊のポイントの数え方を

別に設定しても良いのではないか。

- 岡崎市民百景は観光課の観光キラリ百選とは違い、推薦人である市民に、主観的に推薦してもらい市民投票し選ばれている。これはまさに小さい観光で、これから磨き上げていくことが重要だ。長良川おんぱくなどは商工会議所の岡さんぽ等と連動しさらに稼げるコンテンツとしていきたい。
- 突き抜けたわかりやすいメッセージがあると良い。一つはリバフロの開発とそれに付随するコンテンツ作りが大切だが、例えば岡崎城で 1 年に 1 回宿泊できるようにすると他の城と差別化できる。

（I 委員）

- ノジュールという雑誌の表紙が岡崎城で、表紙を見て非常に嬉しくなった。ただ、16 年前に旅という雑誌で岡崎を紹介したが、現在も紹介する場所が変わっていない。プラスアルファで様々なことが紹介される観光を目指していくべきだと感じた。
- 稼ぐ力が、岡崎市には足りていない。住民もお金を出すことが少ない。自分にとって良いものではないと財布の紐が緩まないからだ。12 月の市政だよりで市民にイメージがわくものが描ければ良いだろう。意外に新聞の三河版は岡崎の情報が少ないと感じている。

（委員長）

- 変化の期待感を市民に持っていただくということだが、市民への声かけが必要だと感じる半面、期待感を持たせすぎるとやりづらくなるのではないか。

（事務局）

- 市民向けの顔と市外向けの顔がある。期待感を出すとなると全ての地区の住民の期待には応えられない面もある。観光産業都市と標榜できるには 30 年から 50 年は必要だ。KPI は内側では市民満足度、対外的には入込客数を積み上げていき、意識が変わった時点で観光産業都市となるのではないか。
- 回遊ポイントと百選については、観光地になるためには駐車場や地域住民の歓迎の問題があるため一朝一夕にはいかないだろう。県の報告では最低限の数字をカウントするようになっているが、それらを基礎数値にして積み上げているため、（観光地に相応しい状態に）該当した時に組み込んでいくこととしたい。百景はこの 4 年間で形にはならないかもしれないが、そういった市民の試みがある時にアクションプランで形を変えていければと考えている。

（委員長）

- 改訂の目的に観光産業都市が書き加えられたが、ホテルはその意識を持ちやすい。しかし、それ以外では認識が主観的には持ちづらい。タクシーの運転手でも京都は貸し切りが多くその意識も持ちやすい。事業者に対してセミナーを含めた啓発活動を行っていかないと難しい。
- タックスコードを考案するべきではないか。ホテルは 100%が観光だが、レストランは必ずしもそうではない。どれだけの税収が観光によって入ってきているかということを明確にすることも必要ではないか。

（J 委員）

・ 民間と市民の力をどう引き出していくかが重要だが、それをしっかりとメッセージとして打ち出していくべきだ。アクションプランも白書の中に KPI を設定して評価していくとなると、行政主観というイメージを与えてしまいもったいない。パブコメをしていただくときに、そうしたメッセージとして伝わると良い。

（委員長）

・ 民間と行政が一つになっているのは観光の場合は観光協会だ。観光協会自身が観光ビジネスの共同体だと思える法人化のあり方が求められる。
・ 皆様の意見を整理し、このアクションプラン案をもとにパブリックコメントの素案とさせていただきたい。また、この後、修正等は事務局と相談をし委員長に一任していただいて進めていくこととしたい。宜しいか。

（一同）

・ 異存なし。

（2）前アクションプランの評価について

（H 委員）

・ 追加資料の 1 枚目に岡崎サイン整備計画の策定とあるが、岡崎城のサインも意匠が別々で違和感を持つ。都市計画課でもリバフロのサインを計画しているそうだが、岡崎市全体で、デザイン性の統一やわかりやすさを調節していただきたい。また、サインとパンフレットが連動していると良いため、検討していただきたい。

（J 委員）

・ 1 ページにある国際化に対応した案内表示についても一緒に進めていただきたい。

（委員長）

・ 昨年度観光庁からローマ字表記の指針も出たため、今後整備されていくだろう。
・ 今後 KPI を置かれるのであれば、それに連動した評価に置き換えるべきではないか。また、何らかの寄与率が見えれば、実施した価値が感じられるのではないか。

（事務局）

・ 通常、行政の計画は膨らみ過ぎわかりづらくなるが、今言われたように検討していきたい。

（H 委員）

・ レンタサイクル事業について、現状は岡崎駅と岡崎城公園に 5 台ずつあるが、愛知トリエンナーレでも用意した 20 台で観光客が岡崎市を広く回っていただいていた。リバフロも自転車があると意外に回りやすい。町の中の回遊性も上がるのではないか。

（委員長）

・ 富山市等で観光だけではなく、日頃の通勤や通学に利用できるシステムがあるが、あれは行政がすべて負担しているのか。

（事務局）

・ 事業者と行政が半々で事業を展開している。全体的に収益が上がる事業ではない。ア

クションプランの 50 ページで、自転車での市内回遊の促進を継承すると記載している。コミュニティサイクル増便の検討も必要だと感じている。

（委員長）

・ いただいた意見を盛り込みパブリックコメントに生かしていきたい。

（一同）

・ 異存なし。

（３）目標指標について

（C 委員）

・ 一昨年の秋からツアーが増え、中国人の宿泊もある。ただ円高で今年 9 月から団体ツアーが減っている。個人客を含めどう呼ぶかが課題だ。ホテル同士では数字での交換は行っていないが、東三河全体の情報交換の場はある。その情報を岡崎市に提供することは問題ない。

（H 委員）

・ 1%や 0.5 ポイントには何か基準があるのか。

（事務局）

・ 決まった基準はないが、あくまで目標値として実現可能なレベルで考慮し設定している。23 ページの平均入込客数の伸び率が平均で 1.5%だ。社会情勢や災害のリスクを考慮し 1%と設定している。

（委員長）

・ 岡崎市と似た都市で比較して数値を割り出すということはないのか。

（事務局）

・ 今回伸び率等で、川越市、高崎市、長野市、函館市、横須賀市などを参考としている。

（H 委員）

・ 6 ページの入込客数の増減をみると平成 25 年に非常に上がっているが、背景に変動要因はあるのか。向こう 5 年はリバフロの計画が終わり、考えられる社会的要因を加味せずに 1%と設定されているのか。

（事務局）

・ 平成 25 年度は藤川宿が開駅したため大きく伸びている。平成 27 年が家康公生誕 400 年祭をしているにも関わらず減っているのは、桜まつりが雨の影響で期待通り伸びていないからだ。リバフロは施設ではなくイベントとして計上している。イベントは天候に左右され目標値を出しづらい。リバフロが完成する 32 年時点で、基準年となる平成 26 年のイベントの入込客数の 6%増をリバフロも含めたイベント誘致で賄うために上乗せを計上している。

（H 委員）

・ 岡崎サービスエリアができたことで数値は上がると思われる。

（事務局）

・ 岡崎サービスエリアの入込客数は岡崎市の入込客数と同等以上と想定されている。サ

ービスエリアの増減は、岡崎市の施策より国や NEXCO の施策の影響が大きいため、指標からは削除している。

（委員長）

・ 施設やイベントは岡崎市の意志が働かないところも多いのではないか。

（事務局）

・ 社寺仏閣などは確かにそうだが、各飲食店や民間観光地の努力を促していく意味でもそこまで含めた観光行政と捉えている。

（H 委員）

・ 強い根拠がないのであれば、白書を出す際も指標を見直していくことが必要ではないか。

（事務局）

・ 想定外のイベントがあれば、白書の中でも修正していきたい。

（B 委員）

・ 目標数値が一番大きい道の駅藤川はこの 3 年で 167 万人が 124 万人に減っているが、そこから右肩上がりの計画が立てられるのか。

（事務局）

・ 実績で追っているのは平成 26 年までで、それ以降は実績を考慮せず 1%増をベースに目標を立てている。

（B 委員）

・ 明らかに減っている理由は把握されているのか。

（事務局）

・ 平成 25 年はオープン当初ということもあり、もの珍しさでお客様が来ている。平成 26 年の減少はその反動によるが、平成 26 年から平成 27 年の減少は検討できていない。

（委員長）

・ 常に新しいことをしていかないとこの 1%は達成できないのではないか。例えば重回帰分析の結果で 1%という数字が出てきたという回答ができるのか。同じ数字が並んでいることに対してパブコメでも疑問が出てくる可能性がある。基準にする年によって数字は変わるため批判は出るかもしれないが、これだけ同じような意見が出ていることに配慮するべきだ。

（事務局）

・ 重回帰による試算はしているが、平成 23 年度以降のデータしかなく、明らかにサンプル数が不足するため、有意の相関がみられないという結果だとうことでご了解願いたい。

（B 委員）

・ 現状では下がっているかもしれないが、他の施設にならって目標数値を上げていくスタンスを市が示す意気込みも必要ではないか。

（事務局）

・ 入込客数全体でみるとイベントの影響が出てしまい、5 年から 10 年では統計的な差異を見出しづらい。

・ 検討段階では対象施設の入込客数だけにする議論もあった。イベントについては相談し、しっかりしたものを提出したい。

（委員長）

・ 皆様の意見を踏まえた上で、アクションプランの素案に記載していきたい。

（一同）

・ 異存なし。

4　その他

（1）今後のスケジュールの確認について

【事務局説明】

（2）第 5 回岡崎市観光基本計画推進委員会の日程について

【事務局説明】

（委員長）

・ オブザーバーの方からご意見等はあるか。

（オブザーバー）

・ 回遊率の指標で 2.2 を 3.0 にすれば、来場者実績は上がっていくが、それと毎年 1%上げていくこととの整合性はどう見れば良いのか。全体の回遊率が 2.2 から 3.0 になれば非常に数字が伸びる。1 ポイントの上昇率とは雲泥の差となる。それを整理するべきだ。

（事務局）

・ 参考とさせていただいたい。

5　閉会

以上